

G 令和2年度 八屋小学校 学力向上プラン

■視点1-②

《中期目標》自分の考えをつくり、友達と学び合い、考えを広げたり深めたりして、自分の考えを書けることができる。
 (成果指標) 令和4年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点: 国語105以上、算数105以上

《短期目標・指標》

- ・標準学力調査(豊前市実施): 国語、算数ともに、全学年において、活用領域で全国平均に達する。
- ・5・6年は令和2年度全国学力・学習状況調査、県学力調査における活用領域で全国平均・県平均に達する。
- ・令和3年度福岡県学力調査【中1】において、県標準化得点で国語100以上、算数100以上を目指す。

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

- 学期はじめや、学級懇談会において、市教育委員会作成の家庭学習パンフレットを用いて保護者と家庭学習の内容や方法の共通理解を図る。
- 課題のある学習内容、テスト日程を家庭に知らせ、その内容に関わる自主学習への取組の協力を依頼する。

■視点2

学力課題解決に直結する授業改善 【授業づくり】

- ・第3学年以上の算数科の授業において、全国学力・学習状況調査や県学力調査を教材として授業を行う(実施率100%)。
- 「書く活動」の位置付け**
 - ・主題研究の日常化を図るため、「比べる」「学び合う」「書く」活動を計画的に位置付け、週指導計画案に記入する。(実施率100%)
 - ・教科の学習指導において、めあてや考え方、まとめをキーワードを入れて書くようにする。
- 個に応じた指導の充実**
 - ・第4学年及び第5学年の算数科において、習熟度別学習を位置付ける。(実施率100%)
- 〈成果指標〉**
 - ・八小チャレンジ検定において、学級毎の目標値や個人の目標値を設定し、9割以上の児童が目標値をクリアする。
 - ・標準学力調査(豊前市実施): 国語、算数ともに、全学年において、基礎領域で全国平均に達する。

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

- 年度当初に、児童の実態、学力向上方策等の共通理解の場を設定する。
- 定期的な教室訪問を実施し、共通実践の進捗状況を把握し、管理職、主幹・指導教諭による適切な指導助言を行う。
- 学期末に、学校評価を実施し、結果に基づいた学力向上方策の改善策を全教員で協議する。
- 学力向上のための小中合同の研修会を実施する。

■視点3

補充学習・確認テスト・反復練習の工夫 【学力基盤づくり】

- ・朝のスキルタイムにおいて、四則計算の力を高める音読計算の活動や語彙力を増やす意味調べ活動、文章を書き方を身につける視写活動を全校で取り組む。(実施率100%)
- 人間関係を深める学級経営**
 - ・八小チャレンジ本番の2週間、朝のスキルタイムと家庭学習において、自分で設定した目標達成を目指して意図的・計画的に課題に粘り強く取り組ませる。実施後は自己評価等により達成感を味わわせる。また、学級の取組目標を設定し、励まし合いながら練習に取り組むことで一体感を味わわせる。(個人目標及び学級目標設定率100%)
- 〈成果指標〉**
 - ・八小チャレンジにおいて学級目標を達成できた学級の割合が90%以上

■視点1-①

R1 6年全国学力・学習状況調査及び5年県学力調査結果から見た課題

標準化得点	国語	算数
6年全国学調	105.2	99.4
5年県学調	105.9	100

国語は、話し手の意図を捉えながら聞くことや、題意や条件を意識して書くことや複数の文章から必要な言葉や大切な文を見つけることに課題がある。算数は、資料の特徴や傾向を関連付けて判断することや、図形の構成要素や性質を基に記述説明することに課題がある。質問紙の結果から、話や文章の組立てを工夫することに苦手意識をもつ児童の割合が高い。

要因(授業づくりやその他学校の学力向上の取組)

- 「問題解決的な学習、話し合う活動、自分の考えを再構築する活動の不足(視点2)」
- 「粘り強くやり遂げる経験の不足、語彙量を増やす指導の不足(視点3)」
- 「児童の実態、方策の共通理解、共通実践の不徹底(視点4)」
- 「家庭学習時間の二極化、課題を踏まえた家庭学習の内容の精選の必要性(視点5)」